



芝山小だより

6月号

清瀬市立芝山小学校

校長 清水 一臣

<http://www.kivasa.ed.jp/>

「相手意識」が人間関係を育てる

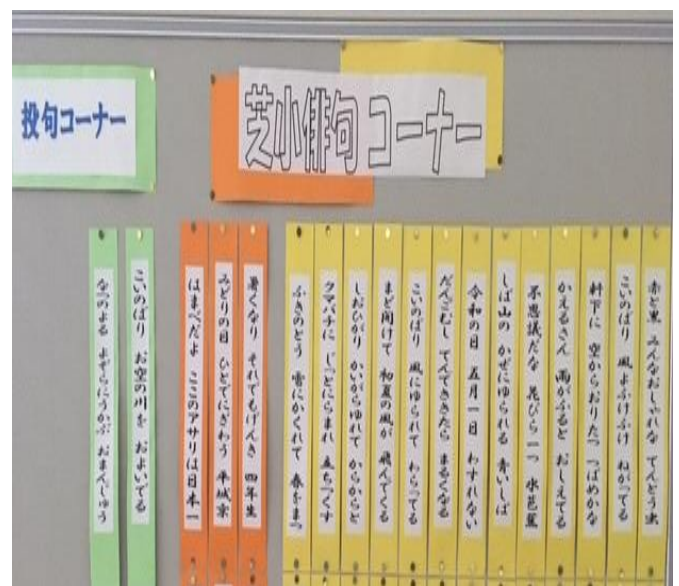
副校長 中島 孝

芝山小学校では、俳句の創作活動を全校で取り組んでいます。先日も4年生が取り組んだ俳句を「芝小だより 増刊号」として配布いたしました。昨年の俳句よりも大きく成長したことが伝わったと思います。

先日、石田波郷俳句大会実行委員でもある細見遼子先生から、俳句の指導法について先生方が学ぶ機会に恵まれました。その中で、細見先生は、俳句を創作する教育的意義と言語力を高める効果について概ね次のようなお話を頂きました。

俳句の創作は、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を育てる。また、知覚を通して入ってくる非言語情報を言語化する能力や、相手や場面に応じた分かりやすく筋の通った発言や文章を組み立てる理論的思考力、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力、言葉に表れない思いを察する理解力、相手や場面に応じて展開していける力が育ちます。

今年度から、児童昇降口付近に投句箱を設置しました。すでにたくさんの子供たちが投句をしてくれました。その中で心に響いた俳句を職員室前のろう下に設置した「俳句コーナー」に掲示してあります。また、4年生の俳句の中で、校長と副校長が選者となって心に響いた俳句をいくつか選び、掲示してあります。学校へ来られた際にぜひご覧ください。



社会でよりよく生きる力の1つとして、「相手意識」があります。「相手意識」がないということは、自己中心的な思考が優先し、責任転嫁をしてしまうので人間関係がうまくいかなくなります。「相手意識」をもつということは、自分自身の言動を相手の人がどう感じるかを想像し、より良い関係になると考えます。予測困難な未来を力強く生きていく児童の育成をめざし、今年度も俳句の創作活動に取り組んで参りたいと思います